

第51回 SCCJセミナー開催のご案内

ゲルの織りなす化粧品の世界 — ポリマー、レオロジーの基礎から製品開発まで —

本セミナーは、より良い化粧品を作るために必要な技術情報を提供すべく取り組んで参りました。今回は、「ゲルの織りなす化粧品の世界 — ポリマー、レオロジーの基礎から製品開発まで —」と題し、化粧品の製剤開発に欠くことのできない「ゲル」をテーマに取り上げました。ゲルを形成する高分子の基礎から最新の機能性高分子の設計、評価法としてレオロジー、化粧品に汎用される高分子、油性ゲルおよび水性ゲル製剤への応用について、さらに関連業界からセルロースナノファイバーを用いたボールペンインク的设计について、大学および業界内外の6名の講師の方々からお話いただきます。

また、本セミナーの特徴である、講師の方々と直接お話しいただくフリーディスカッションの場もご用意いたします。講師の方々と直接議論することで、講演の内容理解がより深まり、また、講演を聴くだけでは得られないタネが見つけれられることと思います。皆様には、奮ってご参加いただきますようお願いいたします。

記

日 時 2018年2月27日(火) 10:00~18:00 (受付開始 9:30 予定)

会 場 セミナー：きゅりあん(品川区立総合区民会館) 8階大ホール
 フリーディスカッション： 同会場 7階イベントホール
 〒140-0011 東京都品川区東大井 5-18-1
<http://www.shinagawa-culture.or.jp>

参加費

会員(正・準・シニア)	13,000 円
代理出席(注1)	13,000 円
一般	19,000 円
当日参加(会員・一般共に)	19,000 円

(注1) 正会員が不参加の場合は代理人1名が代理出席を利用できます。

申込方法 申込用紙に必要事項をご記入の上、下記の番号までFAXを送信願います。

FAX ⇒ 045-590-6093

申込をいただきましたら確認のFAXを事務局から返信いたします。3~4日以内に届かない場合は、事務局までご連絡をください。なお、参加証は発行しておりません。

<申込締切日 2018年2月13日(火)>

<振込締切日 2018年2月20日(火)>

お振込みの際、振込人氏名(御社名)の前に **51** をご記入願います。

振込先 みずほ銀行 銀座支店 普通 1797932

「日本化粧品技術者会(ニホンケショウヒンギジュツシャカイ)」

キャンセルおよび複数でのお振込みの詳細は最終ページをご覧ください。

ゲルの織りなす化粧品の世界

— ポリマー、レオロジーの基礎から製品開発まで —

< スケジュール >

< 総合司会 吉武 裕一郎 (オッペン化粧品(株)) >

時間	題目・講師
10:00-10:05	開会の挨拶 セミナー委員長 植田 光一

< 座長 小又 昭彦 (株資生堂) >

10:05-11:05	最近の重合技術が可能にする両親媒性高分子の分子設計と機能 福井大学 学術研究院工学系部門 准教授 杉原 伸治 先生
11:05-11:45	それゆけレオロジー ～化粧品製剤開発におけるレオロジーの応用～ クラシエホームプロダクツ(株) 中川 泰治 氏
11:45-12:55	昼食休憩

< 座長 今井 健仁 (ホーユー(株)) >

12:55-13:45	水溶性増粘剤による化粧品基剤のレオロジーコントロール (株資生堂 中村 綾野 氏
13:45-14:45	油性ゲルの物性制御と化粧品への応用 東京工科大学応用生物学部 教授 柴田 雅史 先生
14:45-15:00	休憩

< 座長 芳賀 理佳 (ライオン(株)) >

15:00-15:50	化粧品用増粘剤の種類とアクリル酸系増粘剤の製剤安定化機構・ レオロジー特性・乳化性能 日本ルーブリゾール(株) 櫻井 正利 氏
15:50-16:30	セルロースシングルナノファイバーを用いたボールペンインクの開発 三菱鉛筆(株) 横浜研究開発センター 中田 有亮 氏

< 総合司会 吉武 裕一郎 (オッペン化粧品(株)) >

16:40-17:55	フリーディスカッション
-------------	-------------

17:55-18:00	閉会の挨拶 セミナー副委員長 山原 年
-------------	------------------------

演題 ① 最近の重合技術が可能にする両親媒性高分子の分子設計と機能

福井大学 学術研究院工学系部門 准教授 杉原 伸治先生

要旨：様々な両親媒性高分子が利用されている現在、もう一度その高分子合成・調整方法を見なおすことで、これまでに得られなかった機能を付与させることが可能になる。例えば水溶性高分子を例に挙げると、温度応答性をはじめとする刺激応答性、それを利用したゲル剤(温度上昇によるゲル化)、重合を巧みに利用した自己組織化(ミセル、ワーム、ベシクル)等である。どのような分子設計(精密重合)でこれら興味深い機能を生み出すことができるか、高分子合成屋の立場に立って紹介する。

演題 ② それゆけレオロジー ～化粧品製剤開発におけるレオロジーの応用～

クラシエホームプロダクツ㈱ 中川 泰治氏

要旨：レオロジーとは物質の変形や流動を扱う学問である。様々な粘弾性を有する化粧品の製剤開発を行う上で、その概念を理解すると視野が大きく広がるであろう。本講演では、処方開発者の視点で化粧品製剤開発に必要なことを中心にお話したい。測定自体の意味やどのような測定をすると何が分かるか等のベーシックなことから、実際の製剤開発時に安定性評価、感触創造、製造方法検討等へ応用した例も紹介する。

演題 ③ 水溶性増粘剤による化粧品基剤のレオロジーコントロール

㈱資生堂 中村 綾野氏

要旨：水溶性増粘剤は粘度の調整や製剤安定化のために多くの化粧品に配合されているが、このような機能面に留まらず、「みずみずしさ」「さっぱりさ」「しっとりさ」など、化粧品にとって非常に重要である使用感触を調整することができる点が非常に興味深い。本講演では、機能面および感触面に着目して我々が取り組んできた、形態制御技術を用いた新規増粘剤開発の事例、さらには種々の増粘剤による基剤のレオロジーコントロール技術として、レオロジーパラメータによる感触の定量化研究の成果を紹介する。

演題 ④ 油性ゲルの物性制御と化粧品への応用

東京工科大学応用生物学部 教授 柴田 雅史先生

要旨：油性ゲルはスティック・ペースト状の油性化粧品の基剤として、また乳化系における増粘・安定剤として広く活用されており、その物性は製品の性能および安定性に深く関与している。本講演ではワックスや糖脂肪酸エステルなど化粧品に用いられる各種ゲル化剤について、そのゲル化機構を体系的に解説し、ゲル硬度・塗布性能・オイル保持性などのゲル物性との関連を明らかにする。また結晶制御技術をもとに開発された、石油系ワックスと同等のスティック化性能をもつ植物ワックス組成物について紹介する。

演題 ⑤ 化粧品用増粘剤の種類とアクリル酸系増粘剤の製剤安定化機構・レオロジー特性・乳化性能

日本ルーブリゾール㈱ 櫻井 正利氏

要旨：化粧品処方における増粘剤は、天然物、合成高分子または無機粉体など多岐に渡る。これらは製品の安定化という目的だけではなく、製品の使用感の調整、外観の調整など、消費者が手に取った際に受ける印象に大きく影響を与える。本講演では、化粧品に使用される増粘剤の紹介と、その中でも長年幅広く活用されている、カルボマーの増粘機構と製品安定化機構、レオロジー特性、さらに最新の(アクリレート/アクリル酸アルキル(C10-30))クロスポリマーの増粘、乳化性能について紹介する。

演題 ⑥ セルロースシングルナノファイバーを用いたボールペンインクの開発

三菱鉛筆㈱ 横浜研究開発センター 中田 有亮氏

要旨：ボールペンの技術は日々発展しており、性能の高いボールペンが増えている。一方でお客様がボールペンの筆記性能や描線性能に潜在的な不満を持っていることも確かである。この度、我々はボールペンにとって理想的なレオロジー特性をもつセルロースシングルナノファイバーを増粘剤に用いたボールペンインクを開発した。本講演では、セルロースシングルナノファイバーとの出会いから商品化に至るまでの開発経緯及びボールペンの品質について紹介する。

